

# ニューズレター

**No.82**

2015年 8月 2日

## 目 次

### お知らせ・行事案内

<b>はじめよう！ かながわの自然を未来へ</b> 50周年記念行事	-----	1
パネル展	-----	2
記念講演・活動報告会・パネル展示・交流会		
さがみ自然フォーラム		
行事報告	-----	3
生物多様性ホットスポット	-----	4
相模湾沿岸の津波事前防災計画について	-----	8
神奈川県内自然保護ニュース	-----	10
神奈川県自然保護協会からのお知らせ	-----	11

### 神奈川県自然保護協会 行事案内

## はじめよう！ かながわの自然を未来へ

## つくろう！ 山・里・川・海と街をむすぶ「ひとネット」

### ～ NCS-K（神奈川県自然保護協会）50周年記念～

今年が神奈川県自然保護協会がNPOになる以前、任意団体の頃から数えて創立50周年に当たる年です。

これを記念して現在進めている計画を紹介し、会員や県内自然保護団体が手を携えて、未来に向かって新しい状況を作り出したいという願いを込めて進めていきたいと考えています。

#### ●企画の趣旨・メッセージ

東名高速道路の一部開通、東海道新幹線の開通、さらに東京オリンピックが開催されたのは51年前。1964年は、高度経済成長の真っただ中。急激な人口増と都市化の波にあらわれた神奈川県の自然は危機的な様相を呈し、同時に経済活動と車社会による生活環境の悪化を防ぐために神奈川県公害防止条例が施行された年でもありました。そのような社会・自然環境の中において、心ある県民有志や学識者・研究者、企業・行政関係者などが相集い、「かぎりある自然を大切に」という旗印の下、全国に先駆けて神奈川県自然保護協会が設立されたのは翌1965年10月のことです。

以来、それぞれの時代の自然保護の課題や要請に真摯に取り組みながら、県内外の自然保護活動と連携しつつ、神奈川県自然保護協会は50年の歩みを重ねることができました。その間、神奈川の自然のみならず、地球規模の課題である「資源の有限性」「地球温暖化」「生物多様性」などのテーマと重ね合わせながら、山あり谷あり終わりのない自然保護の歩みを続けてきました。これはひとえに、県民、自然保護活動の多様な団体、企業・行政関係者などの、それぞれの立場を越えた課題の共有と、当協会へのご理解

・ご協力のたまものです。ありがとうございました。深く感謝・御礼申し上げます。

半世紀に及び神奈川県自然保護協会の活動の歩みは、高度経済成長期を経て現在に至る神奈川の自然の改変・変遷とともにありました。設立40年を期して神奈川県よりNPO法人の認証を得、『よみもの 神奈川自然誌 海・山・街のいのちをつなぐ』を発刊し、神奈川の自然の危機的状況と処方箋を世に問いました。一方、私たちは、豊かな自然とともに暮らす願いを抱きながらも、生活の便利さや効率優先の経済・社会を追求するあまり、失ってきたもの大きさに言葉を無くします。また、県民、NPO、企業、行政のいずれか一つを欠いても、神奈川の豊かな自然を次世代に継承できないことも明らかです。

ここに、設立以来の自然保護活動の歩みを振り返り、いまある神奈川の自然の大切さを改めて確認し、残された自然の豊かさを次の世代に引き継ぐための「よすが」とするために、「50周年記念事業」を企画しました。半世紀の大きな節目に神奈川県自然保護協会は、設立以来の先人たちの初心に学び、新たな決意のもとに神奈川の自然保護活動に取り組みたいと存じます。

「自然は未来からの預かりもの」とも言われます。県民、NPO、企業、行政などのネットワークと協働をさらに広め、深めながら、いまある「かながわの自然を未来へ」届

ける一人ひとり歩みを、手を携え、ともにはじめましょう。

2015年 8月

NPO 法人神奈川県自然保護協会

## I <パネル展示> (案)

- ・ 会場：新都市ホール（横浜駅 そごう前イベント広場）
- ・ 日時：2015年10月12日（月・祝）～13日（火） 11時～18時
- ・ 展示内容：
  - ① <プロローグ> かながわの自然と神奈川県自然保護協会の活動50年の歩み
    - \* 高度経済成長期以降の神奈川の自然の変遷を概観し、協会50年の自然保護活動と支えた人を写真と解説で
  - ② 命つなぐ神奈川の自然 <特色と課題> 航空写真で見る神奈川の過去と今
    - 部分：丹沢・箱根・三浦・相模川・多摩丘陵ほか
    - \* 山・里地里山・川・街・海をつなぐ自然・命の循環を写真と解説で
  - ③ 命かがやく神奈川の自然 <守りたい自然・神奈川のホットスポット>
    - \* 代表的なホットスポットの写真と解説・地図で身近にある自然の意味と大切さを知ってもらう
  - ④ 自然を守る人たち <活動団体の紹介>
    - \* 県内の自然保護活動団体の中から、地域・活動テーマなどを勘案して10数団体。写真と解説で
  - ⑤ <エピローグ> かながわの自然の未来（イラスト：丹沢・箱根・相模湾・街の緑ほかの夢を描く）
  - ⑥ 市民からのメッセージ：神奈川の自然への一人ひとりの思いを付箋に書いて貼るコーナーを設ける

## II <記念講演・活動報告会・パネル展示 懇親・交流会> (案)

- <パネル展示> 観覧無料
  - ・ 会場：神奈川労働プラザ（3階多目的ホール前ロビー）
  - ・ 日時：2015年10月17日（土） 11時～17時
  - ・ 展示内容：新都市プラザに展示したパネルを流用・展示する
  - ・ 新都市ホールに参加した自然保護活動団体以外の参加も可能
- <記念講演&自然保護活動団体報告> 参加無料
  - ・ 会場：神奈川労働プラザ（3階多目的ホール）
  - ・ 日時：2015年10月17日（土） 13時～17時
  - ・ 記念講演： 13時～14時30分
  - ・ 自然保護活動団体報告：15時～17時 6～8団体
- <懇親・交流会> 有料
  - ・ 会場：神奈川労働プラザ（9階 レストラン）
  - ・ 日時：2015年10月17日（土） 17時～18時30分
  - ・ 会費：1人3000円

## III さがみ自然フォーラム (案)

テーマ 「野生の生きものとうどう付きあうか」

- <パネル展示> 観覧無料
  - ・ 会場：アミューあつぎ 5階 あつぎアートギャラリー
  - ・ 日時：2016年2月11日（木・祝）～15日（月） 9時～18時
  - ・ 展示内容① テーマ展
    - ・ 日本人と野生の生きものとの歴史的関わり
    - ・ 丹沢のシカの例
    - ・ 社会の変化と野生生物
    - ・ 行政の対応、市民の対応
    - ・ 将来の展望 など
  - ・ 展示内容② 自然保護活動をする団体・サークル・学校クラブ活動など：多くの参加を期待しています。
  - ・ 展示内容③ 神奈川県の生物多様性ホットスポット
- <講演> 参加無料
  - ・ 会場：アミューあつぎ 7階 amy スタジオ
  - ・ 日時：2016年2月11日（木・祝） 13時～16時
  - ・ 内容①：神奈川の野鳥 特に県央を中心にして
  - ・ 内容②：「野鳥に親しむ（仮）」 講師 江戸屋猫八氏
  - ・ 野鳥、なんでも質問コーナー
- <スライド映写会>
  - ・ 会場：アミューあつぎ 7階 amy スタジオ
  - ・ 日時：2016年2月13日（土）
  - ・ 内容 厚木市郷土資料館による市内の自然関係（未定）

「アミューあつぎ」は小田急本厚木駅から徒歩5分の所にある、公共と、商業の複合施設です。

# 行事報告

エコツアー「川のめぐみに触れあおう」 2015年4月23日(木)



当日パンフレット

厚木中央公園 9時出発

田名 ふれあい科学館(解説付きで展示見学) ~ 川のめぐみ昼食(原当麻 瓢箪玉) ~

神奈川県広域水道企業団社家取水堰(魚道、ピオトープの見学)

厚木中央公園 16時帰着



相模原市立ふれあい科学館は昨年リニューアルされたきれいな施設で、川の上流から下流へ変化する魚たちの様子が参加者には好評だった。

昼食は相模原市原当麻にある瓢箪玉(ひょうろくだま)という川魚専門店。アユが食べたかったが、まだシーズンでは無いと言うことで、ニジマスのから揚げがメインだったが、大好評。



上：アユの遡上を見せる展示水槽(ふれあい科学館)  
左：取水堰で遡上アユをカウントする漁協関係者

午後は、水道企業団社家(しゃげ)取水事務所に  
あるピオトープと取水堰の見学。

ピオトープは、ここに取水堰を作るに当たって失われる生態系を保全するために設けられたものだ。タコノアシなど植物は良く育っており、植物の管理は良く出来ているが、水の中にはウシガエルの幼生がいるなど、改善が望まれる。また、隣接地に建設された相模縦貫道の橋脚下の緑化植栽植物に園芸種が多用されており、ピオトープの景観に違和感を持たせている。設計段階で配慮できなかったのは残念だ。

取水堰の魚道には横から見られる窓が付けてあり、川の中の魚の様子が見られるようにしてある。見学中に期待したアユの遡上が見られなかったのは残念だった。魚道を上から見ると漁協の方が遡上アユのカウントをしているのが見られた。

本行事は、厚木市生物多様性啓発事業により、本協会が委託を受けて実施しているものです。市民及び、市内への通勤通学者が対象のため広く宣伝していませんが、定員に余裕があるときは参加可能です。ちなみに次は下記の行事が行われます。関心のある方は、事務局にお問い合わせください。

これからの行事 **\*里のめぐみに触れあおう**  
**8月23日(日)**

午前 七沢の川で生き物調べ(専門家が指導します)  
昼 自然ふれあいセンターでピザ作り体験 午後 里のめぐみに出会える七沢日曜なんでも市見学と木工体験(地元の木をつかってバターナイフを作ります) 子どもにとって夏休みの良い体験になります。

集合 9時 厚木中央公園 解散 16時同所  
参加費 バス代、体験費用含めて ひとり1500円  
〆切り 8月12日

## アジェンダの日 ブース出展

2015年5月30、31日(土、日)



今年は例年と違って、実物展示で希少種と外来種の理解を深めてもらいました。また、そのため子どもたちには大人気。真ん中が神奈川県自然保護協会のテントです。

出演してもらった動物：シュレーゲルアオガエル、ニホンアマガエル、トウキョウダルマガエル、ジムグリ、イシガメ、ミシシッピーアカミミガメ、アメリカザリガニ、コオイムシ、ミズカマキリ、タイコウチ、オオキンケイギク、ヒルザキツキミソウ、ユウゲシヨウ、など。大人気のアメリカザリガニについて啓発のパンフレットを配りました。

# 生物多様性ホットスポット

6月14日 本協会総会における選定委員代表,村上雄秀氏の講演の前半を箇条書きにまとめました。

## ○ 生物多様性ホットスポットとは何か

固有種が集中している

種多様性が高い

危機にさらされている

神奈川県は生物多様性は危機に瀕しているものが多い

神奈川県自然保護協会は守るべき地域として選定し、重要な場所を明らかにしていこうという立場

神奈川県は行政の取り組みが進んでいる。

1972 神奈川県自然環境保全地域制定

1990 神奈川県地域環境評価書

1995 神奈川県レッドリスト

などがあり、また神奈川県植物誌、神奈川県昆虫誌など民間による調査も高いレベルにある。

## 自然保護協会が取り組むホットスポット選定

市民レベルで 県レベルのホットスポットを選定しようというのは全国で他に例がない。

## 取り組みに当たって留意した4点

客観的であること 市民レベルなので網羅的きめ細かな選定をしよう

自然保護協会なので、開発行為などの抑制 保全に役立つこと

地域性に基づいた評価 (丹沢の自然と横浜の自然では基準が違う)

市民視点

生物と生息空間を同時に保護することによって自然保護が成立するので、生態系を評価してリストアップする事が重要

## スケールの問題

国立公園、国定公園レベルでは大きすぎる

ひとつの森林とか里山とか生態系として認識できるスケールのものを扱う

## 今までと違うのは、

行政主導するものではない

重要な植物群落 客観的データに基づいているが市民感覚に合うか、

市民の目から見て 自然を再評価できないか？

典型制 プナ、スズタケは希少種ではないが、依存する生物はたくさんいるので基盤として大事

地域の典型的な自然は守らないといけない

二つの観点で選定した。

基準

カテゴリー A：希少種、レッドリスト種などが集中して産する地域（重み付け；県西・県東などの広域区分は加味）

カテゴリー B「機能的ホットスポット」：カテゴリー A 以外で神奈川県や地域の生物多様性の保全上、特に重要な地域

1. 県内に少ないサギ類の集団営巣地や魚類の産卵場など、生息上の重要地域

2. 典型的な生物相や相観を有する生態系

3. 周辺環境からみて相対的に希少な生態系

## 選定の経過

神奈川県の生物多様性ホットスポット選定概要

2012年春 ホットスポット選定メンバーの選定

植物・植生・哺乳類・鳥類・両生類・爬虫類・海域魚類・陸域魚類・昆虫

2012年夏 約150の県内NPO・研究機関・博物館・自然愛好家などに調査用紙を配布

2012年秋 配布した調査用紙を受領（最終的には70件53ヶ所）

2013年春～2014年冬 審査・選定・確認作業

2015年春 第1次最終リストとりまとめ

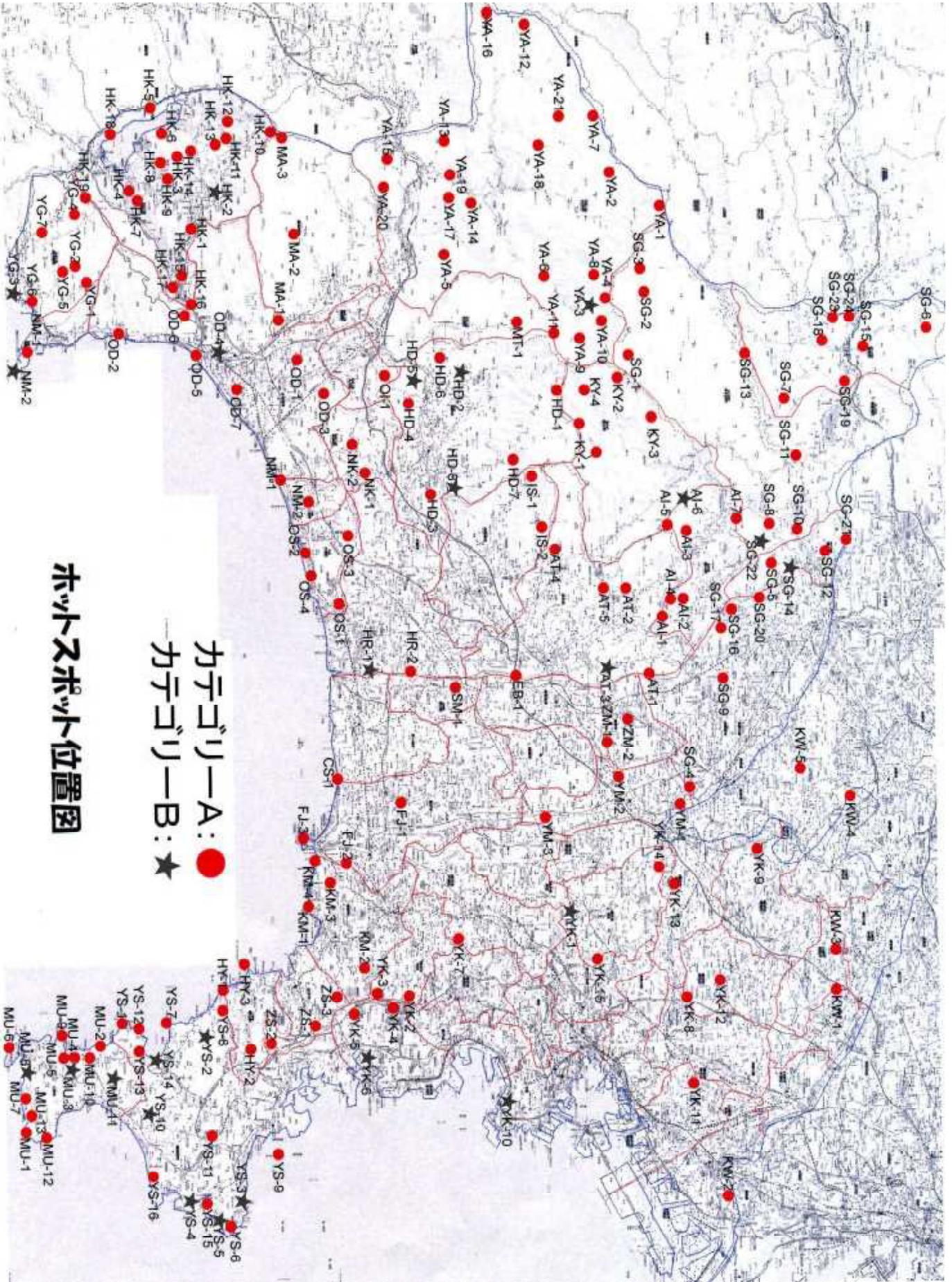
## 結果

191箇所を選定

神奈川県のホットスポットリスト(20150614)

通し 番号	地域番 号(新)	件名	所在地	生物群	カテ ゴリ	自然環境の種別*
1	MU-1	剣崎(けんぎき)海岸	三浦市南下浦町松輪間口地先	植生・海魚	A	岩礁
2	MU-2	黒崎海岸(黒崎の鼻)	三浦市初声町入江地先	A・植物・植生・海魚	A	砂浜・岩礁
3	MU-3	小網代の森	三浦市三崎町小網代	植生・甲殻	B	里山林・湿地
4	MU-4	蟹田(かにだ)	三浦市三崎町小網代	陸魚・海魚	A	水辺・干潟
5	MU-5	小網代湾・塩沼地	三浦市三崎町小網代	植生・海魚・甲殻	A	砂浜干潟
6	MU-6	城ヶ島南海岸	三浦市三崎町城ヶ島	A・植生・昆虫・鳥類・海魚	A	海岸断崖・草原・砂浜・岩礁
7	MU-7	毘沙門海岸(毘沙門湾)	三浦市南下浦町毘沙門	植生・海魚	A	岩礁
8	MU-8	八景原海岸(宮川湾)	三浦市宮川町	海魚	B	岩礁
9	MU-9	油壺荒井浜の樹林・海岸断崖地植生	三浦市三崎町小網代	植生・海魚	A	海岸断崖
10	MU-10	釜田地ノ上の谷戸	三浦市初声町三戸	鳥類・両爬	A	湿地
11	MU-11	初声(はつせ)の谷戸群・流山河川	三浦市初声町下宮田	植物・両爬・陸魚・甲殻	B	湿地・水辺
12	MU-12	大浦～金田湾の海浜植生	三浦市南下浦町金田湾	植生	A	海岸断崖・砂浜
13	MU-13	江奈湾	三浦市南下浦町松輪江奈	A・植物・植生・昆虫・海魚	A	内湾干潟・湿地
14	YS-1	荒崎海岸(荒崎シーサイドコース)	横須賀市長井地先	植生・昆虫・海魚	A	砂浜・岩礁
15	YS-2	大楠山(前田川流域)	横須賀市秋谷	A・昆虫・両爬・陸魚・甲殻	B	里山林・水辺
16	YS-3	走水海岸(施設港内)	横須賀市走水	海魚	B	砂浜
17	YS-4	浦賀燈明堂付近	横須賀市西浦賀	海魚	B	岩礁
18	YS-5	親音崎大橋付近(多々良浜)	横須賀市鴨居	海魚	B	砂浜
19	YS-6	親音崎自然公園の自然林	横須賀市鴨居地先	植生	A	海岸断崖・丘陵
20	YS-7	天神島・笠島周辺と海浜	横須賀市佐島	植物・植生・鳥類・海魚	A	草原・砂浜・岩礁
21	YS-8	釜山大池と棚田跡	横須賀市秋谷	A・昆虫・両爬	A	里山林・湿地
22	YS-9	猿島	横須賀市猿島	植物・植生・昆虫・海魚	A	陸地・砂浜・巨石・岩礁
23	YS-10	武山の谷戸群(旧鬼ヶ谷戸地区)	横須賀市須賀谷・津久井・武	A・両爬	B	里山林・里景観・湿地
24	YS-11	大矢部自衛隊跡地	横須賀市大矢部	陸魚	A	里山林・水辺
25	YS-12	横須賀市長井港付近の岩礁	横須賀市長井	鳥類・海魚	A	岩礁
26	YS-13	横須賀市富浦公園	横須賀市長井富浦地先	海魚	A	砂浜干潟
27	YS-14	横須賀市御幸浜	横須賀市御幸浜長坂地先	海魚・甲殻	B	砂浜
28	YS-15	叶神社の社叢林	横須賀市東浦賀	植物・植生	A	自然林
29	YS-16	谷戸ノ田・かがみ田	横須賀市野比	昆虫・両爬・甲殻	A	里山林・里景観・湿地・砂浜
30	HY-1	長者ヶ崎	葉山町下山口	植生・海魚	A	砂浜・岩礁
31	HY-2	上山口の谷戸群	葉山町上山口	植物・昆虫・両爬	A	里山林・湿地・水辺
32	HY-3	芝崎海岸	葉山町一色真名瀬地先	海魚	A	岩礁・松石海岸
33	ZS-1	神武寺の常緑広葉樹林	逗子市沼間神武寺	A・植生・鳥類	A	自然林
34	ZS-2	森戸川と谷戸群	逗子市枝山・葉山町長柄	A・植物・昆虫・鳥類・両爬・陸魚	A	里山林・水辺・湿地
35	ZS-3	池子栄軍住宅地周辺	逗子市池子	植生・昆虫・鳥類・陸魚	A	自然林・池沼
36	YK-1	こども自然公園	横浜市旭区大池町	昆虫	B	里山林
37	YK-2	瀬上沢	横浜市栄区上郷町	A・昆虫・鳥類・陸魚	A	水辺
38	YK-3	横浜自然観察の森	横浜市栄区上郷町	A・植物・鳥類・陸魚	A	水辺・丘陵
39	YK-4	金沢市民の森	横浜市金沢区釜利谷東	A・植物・陸魚	A	水辺
40	YK-5	侍堤川支流域	横浜市金沢区朝比奈町	陸魚	A	水辺
41	YK-6	野島	横浜市金沢区野島町	植物・鳥類・海魚	B	干潟・丘陵
42	YK-7	舞岡公園	横浜市戸塚区舞岡町	A・植生・昆虫・鳥類・両爬・陸魚	A	里山林・湿地
43	YK-8	鶴見川河川敷	横浜市港北区小机町	昆虫	A	川原
44	YK-9	寺家ふるさと村周辺	横浜市青葉区寺家町	A・植物・昆虫・両爬・陸魚	A	里山林・水辺
45	YK-10	三溪園	横浜市中区本牧三之谷	A・植生・鳥類・甲殻	B	丘陵
46	YK-11	二ツ池	横浜市鶴見区獅子ヶ谷二ツ池	植物・昆虫・甲殻	A	池沼
47	YK-12	茅ヶ崎公園自然生態園	横浜市都筑区茅ヶ崎南	陸魚	A	里山林・水辺
48	YK-13	新沼市民の森	横浜市緑区新沼町	植物・昆虫・陸魚	A	里山林・水辺
49	YK-14	三保市民の森	横浜市緑区三保町	植物・陸魚	A	里山林・水辺
50	YK-15	陸ヶ下溪谷	横浜市保土ヶ谷区川島町	植物	A	里山林
51	KW-1	東高根のシラカシ林	川崎市高津区神木本町	植生	A	自然林
52	KW-2	多摩川河口周辺	川崎市川崎区殿町	植物・植生・昆虫・鳥類	A	河原・塩生湿地・干潟
53	KW-3	生田緑地	川崎市多摩区形形	植物・植生・昆虫・陸魚	A	里山林・水辺
54	KW-4	黒川の里山林	川崎市麻生区黒川	A・植物・植生・陸魚	A	里山林・水辺
55	KW-5	鶴見川上・源流域	川崎市麻生区岡上～町田市	両爬・陸魚	A	里山林・水辺
56	KM-1	稲村ヶ崎の海岸断崖植物群落	鎌倉市稲村ヶ崎	植物・植生	A	自然草原
57	KM-2	鎌倉市二階堂	鎌倉市二階堂	植物	A	里山林?
58	KM-3	広町緑地	鎌倉市腰越・津～鎌倉山	陸魚	A	水辺・海城
59	KM-4	小動岬	鎌倉市腰越	陸魚・海魚	A	水辺・海城
60	YM-1	大和市公所の段丘斜面森林(ケヤキ林)	大和市上藤間	植物・植生	A	里山林
61	YM-2	大和市泉の森	大和市上草柳	植物・植生・昆虫・陸魚	A	里山林・水辺
62	YM-3	大和市野鳥の森公園	大和市上和田	植物	A	里山林
63	ZM-1	目久尻川いづい窪谷戸	座間市南栗原	陸魚	A	水辺
64	ZM-2	県立座間谷戸山公園	座間市入谷3丁目	A・植物・昆虫・鳥類・哺乳類	A	里山林
65	FJ-1	引地川左岸の斜面林と水田	藤沢市大庭	A・植物・両爬	A	水田・里山林
66	FJ-2	新林(しんばやし)公園・川名緑地	藤沢市川名	A・昆虫・両爬・陸魚	A	里山林・湿地・水辺
67	FJ-3	江ノ島の常緑広葉樹林・海岸植生	藤沢市江の島	植物・植生	A	自然林
68	EB-1	相模川・戸水橋～運動公園	海老名市社家	植物・陸魚	A	水辺
69	SM-1	寒川町のサギコロニー	寒川町宮山	鳥類	A	里山林
70	CS-1	湘南海岸の砂丘草本植物群落	茅ヶ崎市白浜町・藤沢市辻堂西海岸	植生	A	自然草原
71	AT-1	相模川およびその河川敷周辺植生	厚木市猿ヶ島	植物・植生・陸魚	A	河原・水辺
72	AT-2	荻野運動公園北側緑地(権現堂川)	厚木市荻野	A・昆虫・陸魚・哺乳類	A	里山林など
73	AT-3	中津川・三田(さんだ)	厚木市三田	陸魚	B	水辺
74	AT-4	自然環境保全センター自然観察園	厚木市七沢	A・陸魚	A	水辺
75	AT-5	中荻野・勘造淵(かんぞうぶち)	厚木市中荻野	A・陸魚	A	水辺
76	AI-1	中津川・中津(中津川左岸)	愛甲郡愛川町中津	陸魚	A	水辺
77	AI-2	尾山耕池(中津川右岸)	愛甲郡愛川町中津	A・昆虫・陸魚	A	川原・湿地・里地草原
78	AI-3	塩川滝付近	愛甲郡愛川町田代	A・昆虫	A	里山林
79	AI-4	八管山(はすげさん)神社の森	愛甲郡愛川町八管山	植生・昆虫	A	自然林
80	AI-5	経ヶ岳のモミ林	愛甲郡愛川町田代	植生	A	自然林
81	AI-6	仏果山周辺の自然林	愛甲郡愛川町半原	A・植物・植生	B	里山林
82	AI-7	中津川沿いの岩壁	愛甲郡愛川町半原	植物・昆虫	A	岩壁植生
83	IS-1	大山の原生林(モミ林)	伊勢原市大山	植物・植生・鳥類	A	自然林
84	IS-2	日向薬師の照葉樹林	伊勢原市日向	植生	A	自然林
85	KY-1	礼拝モミ林(一の沢考証林と丹沢市一ム周辺)	愛甲郡清川村煤ヶ谷	植生・鳥類・両爬	A	自然林
86	KY-2	丹沢山三ツ峰・天王寺尾根・堂平の森林	清川村宮ヶ瀬・相模原市緑区鳥屋	A・植物・植生・昆虫・鳥類	A	自然林
87	KY-3	金沢源流部	愛甲郡清川村宮ヶ瀬	両爬	A	渓流
88	KY-4	本谷川源流部	愛甲郡清川村宮ヶ瀬～煤ヶ谷	両爬	A	渓流
89	SG-1	早戸川源流部(早戸大滝・甕平・鬼ヶ岩・不動の峰北面)	相模原市緑区鳥屋	A・植物・植生・両爬	A	自然林・自然草原・渓流
90	SG-2	神ノ川上流部広河原	相模原市緑区青根広河原	両爬	A	渓流
91	SG-3	熊笹ノ峰～小笠(こさげ)北面・ヤタ尾根	相模原市緑区青根	A・植物・植生	A	自然林
92	SG-4	富士道正山の河野林(境川右岸)	相模原市上鶴岡木町9丁目～大和市下鶴岡	A・植物	A	自然林・里山林
93	SG-5	小倉山周辺	相模原市緑区小倉	A・植物	A	里山林(アマガシツバ)
94	SG-6	陣馬山・生藤山	相模原市緑区佐野川・澤井	A・植物・昆虫	A	里山林・自然林
95	SG-7	石老山・牧馬峠・石砂山周辺雑木林	相模原市緑区牧野	植生・昆虫	A	里山林
96	SG-8	串川・福生	相模原市緑区長竹福生	陸魚	A	水辺
97	SG-9	道保川(どうほがわ)源流域	相模原市中央区上溝	陸魚	A	水辺

通し 番号	地域番 号(新)	件名	所在地	生物群	カ テ ゴ リ	自然環境の種別*
98	SG-10	津久井城山	相模原市緑区大井	昆虫	A	里山林・自然林
99	SG-11	道志川弁天橋	相模原市緑区寸沢嵐(すざらし)	陸魚	A	水辺
100	SG-12	小松川・穴川	相模原市緑区川尻鹿籠	陸魚	A	水辺
101	SG-13	鉤子取水堰～道志ダム	相模原市緑区青野原	植物	A	溪岸・水辺
102	SG-14	相模川大島	相模原市緑区大島	陸魚	B	水辺
103	SG-15	沢井川中原	相模原市緑区澤井上沢井	陸魚	A	水辺
104	SG-16	田名の農業用水路	相模原市中央区田名	陸魚	A	水辺
105	SG-17	八瀬川塩田	相模原市中央区田名塩田	陸魚	A	水辺
106	SG-18	秋山川馬本	相模原市緑区牧野馬本	植物・陸魚	A	水辺
107	SG-19	相模川右岸日連	相模原市緑区日連	植物・昆虫	A	里山林・自然林
108	SG-20	相模川葉山島	相模原市緑区葉山島堂ノ尾	陸魚	A	水辺
109	SG-21	本沢(ほんざわ)	相模原市緑区川尻本沢～東京都町田市相原町	陸魚	A	水辺
110	SG-22	三増峠のコナラ林	相模原市緑区根小屋	植物	B	里山林
111	SG-23	名倉向原	相模原市緑区名倉	植物	A	里山林
112	SG-24	石橋尾神社の社叢	相模原市緑区名倉	植物	A	自然林
113	YA-1	白石峠～大室山～犬越路の稜線	足柄上郡山北町中川・相模原市緑区青根	植物・昆虫・鳥類	A	自然林
114	YA-2	畦ヶ丸山のブナ林	足柄上郡山北町中川	植物	A	自然林
115	YA-3	丹沢・イタドリ頭のブナ林	足柄上郡山北町玄倉	ア	B	自然林
116	YA-4	臼ヶ岳～金山谷ノ頭南面(朝日向き尾根・ユウシン沢源流)	足柄上郡山北町玄倉	植物	A	自然林
117	YA-5	山北町皆瀬川支流オオタ沢	足柄上郡山北町皆瀬川	ア・陸魚	A	水辺
118	YA-6	玄倉川流塚(境トンネル～第八トンネル)	足柄上郡山北町玄倉	植物・植生・鳥類・哺乳類	A	自然林
119	YA-7	甲相園境尾根(大界木山～菰釣山南面)	足柄上郡山北町中川	植物・鳥類	A	自然林
120	YA-8	檜洞丸西南尾根(東沢尾根・石棚尾根・同角ノ頭)	足柄上郡山北町玄倉	植物	A	自然林
121	YA-9	養杉沢源流部	足柄上郡山北町玄倉	両爬	A	渓流
122	YA-10	熊木沢源流部	足柄上郡山北町玄倉	両爬	A	渓流
123	YA-11	錦割山のブナ林・イヌブナ林	足柄上郡山北町玄倉・松田町寄・秦野市三廻部	植物	A	自然林
124	YA-12	日影沢源流(高指山東斜面)	足柄上郡山北町世附	植物	A	自然林
125	YA-13	山北町塩沢	足柄上郡山北町西	ア(陸魚)	A	水辺
126	YA-14	山北町滝口沢	足柄上郡山北町神縄	ア(陸魚)	A	水辺
127	YA-15	山北町畑沢	足柄上郡山北町谷ヶ	ア(陸魚)	A	水辺
128	YA-16	切通峠～三国峠	足柄上郡山北町世附切通峠～三国峠	植物・昆虫	A	草地・疎林環境
129	YA-17	大野山山頂	足柄上郡山北町皆瀬川大野山	昆虫	A	草地環境
130	YA-18	酒匂川・大沢	足柄上郡山北町中川	陸魚	A	自然林・水辺
131	YA-19	酒匂川・河内川	足柄上郡山北町西～湯融～山市場	陸魚	A	水辺
132	YA-20	谷ヶ・平山の山地林	足柄上郡山北町谷ヶ～平山 鳥手山	植物	A	自然林
133	YA-21	イテン沢のシオジ林	足柄上郡山北町中川	植物	A	自然林
134	HD-1	新大日ノ頭～鳥尾山	秦野市戸川	植物・植生	A	岩場
135	HD-2	四十八瀬川流域の森林(三廻部～甘柿橋)	秦野市三廻部	ア・植物・昆虫・陸魚	B	自然林と里山林・水辺
136	HD-3	秦野市権現山～弘法山～香妻山	秦野市南矢名	ア・昆虫	A	里山林
137	HD-4	八回見山南側に広がる尾根と谷戸	秦野市沢沢	ア・植物・昆虫	A	里山林
138	HD-5	頭高山	秦野市千村	昆虫・鳥類	B	里山林
139	HD-6	柳川生き物の里	秦野市柳川宇星屋	昆虫・陸魚	A	里山林
140	HD-7	養毛の溪谷林	秦野市養毛	植物	A	自然林
141	HD-8	秦野市名古木(棚田)	秦野市名古木(ながぬき)	ア・昆虫・両爬・陸魚	B	風景観・湿地
142	HR-1	馬入水辺の養牧エリア	平塚市馬入	ア(陸魚)	B	水辺
143	HR-2	相模川寒川堰～河口	平塚市田村	陸魚	A	水辺
144	OS-1	高藤山	中郡大磯町高藤	植物・昆虫	A	自然林
145	OS-2	葛川(くずかわ)河口	中郡大磯町国府本郷	陸魚	A	水辺
146	OS-3	鷹取山の社叢林	中郡大磯町生沢	植物	A	自然林
147	OS-4	大磯こゆるぎの浜・照り崎	中郡大磯町西小磯	ア・植物・鳥類	A	砂浜
148	NM-1	中村川河口	中郡二宮町川匂押切川	陸魚	A	水辺
149	NM-2	葛川(二宮)	中郡二宮町中里	陸魚	A	水辺
150	NK-1	葛川(井ノ口)	足柄上郡中井町井ノ口	陸魚	A	水辺
151	NK-2	中村川(雑色)	足柄上郡中井町雑色	陸魚	A	里山林・水辺
152	OI-1	三鳥神社の社叢林	足柄上郡大井町篠塚	植物	A	自然林
153	MT-1	中津川原流城	足柄上郡松田町寄(やどりき)	哺乳類・陸魚	A	水辺
154	MA-1	酒匂川・仲沢川(なかこがわ)	南足柄市沼田	陸魚	A	里山林・水辺
155	MA-2	大雄山のモミシ・スギ林	南足柄市大雄町	植物・植生・哺乳類	A	自然林
156	MA-3	金時山北面の植生	南足柄市矢倉沢	植物・植生	A	自然林
157	OD-1	酒匂川左岸の水田地帯	小田原市桑原	ア・植物・昆虫・陸魚	A	水辺
158	OD-2	白糸川河口	小田原市根府川	陸魚	A	水辺
159	OD-3	酒匂川の支流岩太郎川源流	小田原市上曽我	陸魚	A	里山林・水辺
160	OD-4	県立小田原高等学校の樹叢	小田原市城山	植物	B	自然林
161	OD-5	早川河口	小田原市早川	陸魚	A	水辺
162	OD-6	小田原市入石塚山付近	小田原市早川	昆虫	A	里山林など
163	OD-7	酒匂川下流～河口	小田原市東町5丁目～西酒匂	鳥類・陸魚	A	水辺
164	HK-1	宮ノ下の常緑広葉樹林	足柄下郡箱根町宮ノ下	植物	A	自然林
165	HK-2	早川の溪谷林	足柄下郡箱根町宮城野	植物	B	里山林
166	HK-3	早雲山～冠ヶ岳～神山の植生	足柄下郡箱根町強羅	植物・植生	A	自然林
167	HK-4	お玉が池の湿地植生	足柄下郡箱根町元箱根	植物・植生	A	自然草原
168	HK-5	芦ノ湖西岸三国山のブナ林	足柄下郡箱根町元箱根	植物・植生・昆虫	A	自然林
169	HK-6	芦ノ湖畔の落葉広葉樹林	足柄下郡箱根町元箱根	植物	A	自然林
170	HK-7	下二子山の植生	足柄下郡箱根町畑畑	植物・植生	A	自然低木林など
171	HK-8	駒ヶ岳の植生	足柄下郡箱根町元箱根	植物・植生	A	自然低木林など
172	HK-9	湯の花沢硫黄孔のマンネンシギ群落	足柄下郡箱根町元箱根湯ノ花沢	植物	A	自然草原
173	HK-10	金時山南面の低木群落	足柄下郡箱根町仙石原	植物・植生・昆虫	A	自然低木林など
174	HK-11	仙石原湿原と合ヶ岳北麓のススキ草原	足柄下郡箱根町仙石原	植物・植生・昆虫・鳥類	A	自然草原・二次草原
175	HK-12	仙石原湿原西方の早川原流域の湧水地・池沼	足柄下郡箱根町仙石原	植物・昆虫・鳥類	A	水辺・水域
176	HK-13	合ヶ岳のブナ林	足柄下郡箱根町仙石原	植物	A	自然林
177	HK-14	大涌谷のミズギ群落	足柄下郡箱根町仙石原	植物	A	自然草原
178	HK-15	塔之沢の常緑広葉樹林	足柄下郡箱根町湯本	植物	A	自然林
179	HK-16	山崎のケヤキ林	足柄下郡箱根町湯本	植物	A	自然林
180	HK-17	早雲寺の社叢林	足柄下郡箱根町湯本	植物・昆虫	A	自然林
181	HK-18	芦ノ湖南岸白浜の水辺植生	足柄下郡箱根町元箱根	植物	A	水辺
182	HK-19	大観山のブナ林	足柄下郡箱根町箱根	植物	A	自然林
183	MN-1	真鶴半島の御林(照葉樹林)	足柄下郡真鶴町真鶴	ア・植物・植生・鳥類	A	自然林
184	MN-2	真鶴半島の三ツ石海岸	足柄下郡真鶴町真鶴	ア・植物・昆虫・鳥類	B	岩場
185	YG-1	星ヶ山探草原野(南郷山)の草原・カシワ林	足柄下郡湯河原町吉浜	植物・植生・昆虫	A	二次草原
186	YG-2	吉浜の風衝低木林(暮山)	足柄下郡湯河原町吉浜	植物・植生	A	自然低木林
187	YG-3	千歳川下流域	足柄下郡湯河原町門川	ア・陸魚	B	水辺
188	YG-4	湯河原町森木川源流域	足柄下郡湯河原町宮上	植物・植生・昆虫	A	自然林
189	YG-5	新崎川葛山公園	足柄下郡湯河原町鍛冶屋	陸魚	A	水辺
190	YG-6	新崎川河口	足柄下郡湯河原町中央5丁目	陸魚	A	水辺
191	YG-7	藤木川上流周辺(万葉公園～奥湯河原)	足柄下郡湯河原町宮上	植物・昆虫	A	自然林・里山林



# ホットスポット位置図

カテゴリーA: ●  
 カテゴリーB: ★

# 相模湾沿岸の津波事前防災計画について

神奈川県自然保護協会元理事 柴田好敏

都市計画が専門の柴田さんは 3.11 以来、神奈川県でも防災対策の必要を痛感し現地視察をしたり、専門家の話を聞くなどしています。

神奈川県自然保護協会では副知事との懇談会を恒例としており、以下の文を用意して話題とするように希望され増した。しかしながら限られ時間の中で量が多いこと、自然保護を超える大きな問題を含んでいるので本協会の意見とするには適当でないという意見があり、この文そのものを話題にすることはしないことになりました。

そこで、問題にしていることを多くの人に広く知って頂けたら良いということで、ここに掲載する事にしました。

また、この問題の担当課と話し合いを持ちました。その結果について文末に付記します。 文責 青砥

## 1 津波事前防災計画の必要性

あの巨大津波が東日本を襲ってから早や 4 年が過ぎ、集中復興期間も今年度で終了するそうですが、復興はいまだ道半ば（約 7 割・23 万人の人々がまだ仮設住まい）で、完成にはあと 3～5 年が必要とされています。

4 年目の被災地についてマスコミは、「若い人たちは職場を求めて他所に移動し、復興工事が終わっても戻ってくるのは年寄りばかり。人口流出に歯止めがかからない」と報じています。これでは政府が現在行っている「地方創生」に逆行して、巨大費用をかけながら次々と限界集落を作り出しかねません。企業誘致や人口・土地利用等の再配分を、地方創生的観点で大至急見直す必要があると思われますが、本題から外れますのでこの辺にしておきます。

その後、列島各地での巨大津波予測が本格化しました。そのなかでも首都圏、相模湾、南海トラフ地震等による東海道・四国・九州の沿岸での予測値には、驚きや困惑も含めて大きな話題となっています。

この首都圏から東海道および四国・九州にかけての巨大津波の来襲は、東日本と比べて対象面積、絶対人口、密度（人口・家屋・産業等）が格段に大きいので、復興予算（東日本は 5 年で 2.6 兆円）は、国家予算を超えるものになることは目に見えています。この点一つとっても事前に防災計画を立て、津波エネルギーの減衰化と被害縮小化を早急に図ることは重要と考えます。

神奈川県では津波予測が何度か修正されながら発表され、当初は大きな話題となりました。ところが、今年 2 月末の予測見直しの発表は、14m 前後の津波が 10～15 分で到達するという、これまでで最も厳しい数値が示されたにも関わらず、私の周辺ではほとんど話題になっていません。「またか」とまるでイソップの「オオカミ少年」のように無関心で他人事のような反応なのです。この様に何度も厳しい値を示しながら、県や市からはただ「逃げてください」のアナンスばかりなのはどう理解すればよいのでしょうか？ 県は現在、津波の事前防災計画をどのようにお考えなのでしょう？

昨年 神奈川県自然保護協会の行事で藤沢土木事務所を訪ね、この点について話し合う機会を持ちましたが、「まだ何も決まっていない」の一点張りで何も聞くことはできませんでした。内部で検討を進めているが、まだ発表には至っていないというところでしょうか？（国道 134 号線の鎌倉市域で、津波による洗掘防止工事が進められています）

今回の津波予測発表を区切りに、津波の事前防災計画を県民に示し、県民の理解と協力を得ながら、できることから事業化に移行すべき時期と考えますが如何なものでしょうか？

## 2 東日本からの教訓を活かした事前防災計画を

私達は東日本での被災と復興過程において、沢山の教訓と反省点を得たと思います。

まず言えることは、これまでの沿岸での街づくりが、津波にあまりにも無防備で、低すぎる地盤と海側へ出張り過ぎの構造で造られてきたことです。過去の津波被害の教訓が生かされていない（岩手県では高台移転後の跡地に、山から炭焼きなどを廃業した人達が下りてきて住みついたと聞きます）のです。

第二に、「万里の長城」と言われた宮古市田老を始めとした防潮堤や津波防波堤等の人工構造物が、いとも簡単に乗り越えられ破壊されたことです。

地球規模のエネルギーを人工構造物で防ごうとする限界を思い知らされましたが、国は更に巨大で強固な防潮堤を沿岸に張り巡らす計画を立て、各知事・市村長から了解を取りつけ、この巨大構造物を大前提として復興計画が立案されました。

その後防潮堤に対する是非論が大きな議論となっていますが、単純に防潮堤をやめれば、防災面が欠けてしまって復興ではなくただの復旧になり、防潮堤に替る代替案も示されず、かみ合わない議論のまま時間が経過しているように見えます。

防潮堤に代表されるこれまでの津波対策は、津波をすべて真正面で受け跳ね返そうとしますので、津波はますます凶暴性を高め、構造物を破壊し乗り越えて大きな被害をもたらしたと思います。一定量の津波を内陸部に受け入れ遊水させれば、津波は自然と海へ戻ってゆくものではないのでしょうか？ 岩手県普代村ではこの方式で死者ゼロだったのです。

第三に東日本大震災では、仮設住宅の量が多すぎました。その分だけ高台移転や嵩上げなどの土木工事が膨大になり、復旧・復興を妨げました。

### 2-1 事前防災計画の基本的方向

これらのことから、事前の津波対策の基本的な考え方は、東日本大震災の復興で採用された防潮堤や嵩上げなど

の大土木工事ではなく、小さな技術の重ね技で対応できないかと私は考えました。津波解析が幾つもの津波形成要素の集合だとすれば、この考えは津波エネルギーを減衰させる幾つかの方法の引き算ともいえるものです。その後 国の機関などで津波防災技術等が開発されていると思います。これらも合わせながら、襲来する巨大津波に対して減災を計るべきではないでしょうか。

以下に私が考えた提案や考え方を書きますので、対策チーム等によりご検討いただき、効果があると判断されましたら、事前防災計画に役立ててください。

## 2-2 沈下と隆起について

先の東日本では、大地が 70cm ほど沈下したといえます。これとは逆に、房総から湘南にかけての地域では、大地震の度に 1.5m 前後隆起すると言われていました。今回の予測では、このような地域の特性を、どのように考慮されていますか？

## 2-3 防潮堤問題

防潮堤に関する問題点は、これまでも沢山出尽くしていますのでここでは省略しますが、2011 年暮れ策定の「津波防災地域づくり法」に基づく計画が昨年、焼津・浜松両市で出来上がりました。この内容を見ると、残念ながら両市案とも沿岸は防潮堤が張り巡らされています。当県沿岸ではこのようなことはよもやないと思いますが、東日本で採用した技術と手法だけでの対処だとこんなことかもしれません。当県での防潮堤設置は最小限に止め、これに代わる手法を工夫する必要があります。

## 2-4 コンパクトシティ化とのコラボ

市街地のあり方を、海や河川・崖地等から後退させパツファーを設け、安全で効率のよいコンパクトシティを形成することが提唱されてだいぶ時間が経ちます。実際に生活している街を変更することは、個人財産保護意識が強いわが国ではなかなか実現されませんでした。ここに来て、政府は地方創生の一環としてコンパクトシティ形成支援を掲げ、現在全国 130 市町村で立地計画づくりが始まっているようです。

神奈川県ではこの動きはまだないようですが、これまで野放図に作られてきた街をコンパクトに構成しなおし、効率よく快適且つ安全な市街地に再形成することが望まれる地域は結構多いように思います。

特に、相模トラフ先端に接する相模川以西の沿岸地域では、道路も街も内陸に移動させる必要があるように私には思えてなりません。県はどうお考えですか？

この様に町全体の構成を見直そうという動きに、津波防災策とコラボさせれば、かなりの相乗成果をあげられると思えます。いろいろな面で都市運営の足を引っ張る空き家問題は、大きな災害後は勿論のこと、コンパクト化の重要な受け皿になりますから、もう少し強い施策（規制や収容）が必要かもしれません。

## 2-5 津波は床下浸水くらいを目標に

高台移転などの大土木工事は、一定の時間が掛るとは思っていました。先に書いたように、仮設住まいが 8 年

前後とはいかにも長すぎ、復興としては大問題でしょう。これは如何にガレキ化した住宅が多かったかを物語っているとも言えます。

東日本大震災で、最も混乱した都市の一つの石巻市は、壊滅的被害を受けた南側の南浜や門脇地域を別にして、国道 45 号線沿いの比較的小高いゾーンでは、床上浸水程度にとどまり、家屋流失もほとんどなく生活再建も早かったと記憶します。その理由の一つに、街全体を縦横に張り巡らされた河川と運河が、津波を広くて平坦な市街地に平等に溢れさせた結果と考えられます。

したがって、津波事前計画の目標は、「人命を守る」に加えて、津波浸水は床下前後にとどめ、被災後に一階部分を修理すれば、生活をすぐに再開できるようにしながら、本格的な復旧・復興事業へと移行できるようにする「住宅等の被害量を最小限」にすることと考えます。

## 3 幾つかの提案

### 3-1 海側での対応

以下に述べる事項（特に①）は、私が報道等で知った津波発生メカニズムを、素人なりに素朴に考えたものです。

また②③の特殊な波形も同様に、津波や水工学の専門家に問い合わせましたが、返事はもらえなかった事項です。他にも国などの機関により説明が進んでいる特殊波形と対策などが整理されていれば一緒にお考えください。

#### ①津波の高まり点をより沖に移動させると、どのくらい効果があるのだろうか？

近年我が国の各地で、ダム築造や護岸工事による岩石の供給量不足による、海岸浸食が問題視されてきました。当県では河川敷への「置き砂」や海底砂の掘削と砂撒きなどにより一定の効果を受け、かつての広い砂浜を確保しつつあります（本来はダム上流部にバイパス等を設け、自然循環による供給が好ましく、早い時期にこの方式に移行することが必要）。

この砂浜改良の前後に対する津波予測値は検討されていますか？

また津波の盛り上がりは水深 30m 付近で始まると聞きます。そのポイント付近まで「岩石や砂を投入し、盛り上がり点をより沖に移動させれば、津波はより沖で高まり、エネルギーを消費させながら陸に接近し、上陸するころには水平化して被害は最小となる」といった考えが成り立つように思えますが、検討はされていますか？ これが可能になれば、茅ヶ崎以東での津波対策に有効と考えられますが如何でしょうか？

#### ②レンズ(屈折)効果波の解消技術は？

○ 2011 年夏に、いわき市豊間地区の津波が近くの同様な地形地区と異なり、被害も大きかったと NHK で報道されました。これに対し東北大学の今井准教授は「浅瀬の舌状の海底地形により津波が屈折し、上陸時にパワーアップする局地的な高波」とコメントされました

○ この様な特殊波は、「東北の牡鹿半島以南で沢山あったのではないかと」私は考えますが、場所の特定や減衰技術は検討されているのでしょうか？ 減衰技術が開発されれば、防潮堤の建設中止や規模縮小化が可能になると思います

- 各地の津波予測で、このレンズ効果波の発生場所の特定はなされていない（内閣府等）とのことですが、神奈川県では場所の特定と予測値および防災策を出すべきと考えますが如何でしょうか？
- レンズ効果波はサーフィンが盛んな海岸で起こるとも聞きます。対策はサーファーとの棲み分けが鍵になるように思えますので、この点にもご配慮ください
- この方式は、農地が広く展開する郊外部の津波防災には、非常に有効な方法であり、人的被害も家屋破壊ともに少なく済みます
- 費用面でも、ガレキ化した街の復旧・復興費用や時間に比して、津波で塩害化した田畑の土壌改良や農家への補償の方が格段に安く、且つ工期も短く済むといったメリットがあげられます

### ③その他の特殊波

- 東日本大震災時でのエッジ波は、千葉県旭市で起きたと報道されていますが、レンズ効果波同様に、予測、減衰技術、防災策について、お聞かせください
- その他にこのような特殊波があれば、その特定と対策について教えてください

## 3-2 海と陸の境界部

### ④宮脇氏提唱の「命を守る緑の防潮堤」

- 神奈川県には、境川から相模川にかけて 10 km 強の海岸に海岸緑地（砂防林）が整備されています。宮脇昭氏も緑の防潮堤になりうると推奨しています。近年この海岸においては砂浜拡張に成果をあげていますので、この拡張分を海岸緑地の拡幅や構造強化に充てれば、更なる効果が期待できると考えますが、県のお考えをお聞かせください
- いわき市沿岸には、江戸時代の磐城平藩内藤家が造った新舞子浜等の巾 50 ~ 100m の海岸緑地あり、今回の津波から街を守り感謝され、いわき市平沼ノ内の諏訪神社では、須賀山道山林（どうざんばやし、道山は内藤家の初代藩主・政長公の法名で、黒松林を奨励）の碑が 2012 年 4 月に建てられました（密度の高い雑木林が津波を減衰させたように私には見えました）
- 前述②の豊間地区は江戸時代から市街化していて緑地はなく、海岸の擁壁も老朽化で改修中のところをレンズ効果波に襲われ、大きな被害を出したようです

## 3-3 陸側での対応

### ⑤普代方式

- 東日本大震災で死者ゼロだった岩手県普代村（正確には通勤者 1 名死亡）では、住宅系は小高い場所に立地させ、農地側の堤防を低く造っておき、河川が津波を飲みきれなくなった時、農地側に溢れさせる構造にして成功しました

### ⑥甚大な津波浸水が予測される地区

被害が大きいと予測される地区での事前住宅等の移転は、最も効果のある対策でしょう。コンパクトシティ形成施策等と共同し、住民に十分に理解してもらいながら、学校や幼稚園、高齢者および住宅の移転をできることから事業化することが好ましいと考えます。

住宅等が移転してできた空地は河川、拡大用地や地下水槽等の確保とともに、嵩上げや防災緑地整備後に、住宅地や他の土地利用が考えられます。

### ⑦地下調整池

近年、東京都が環状道路等の地下に造った集中豪雨対策用の巨大地下調整池は、かなりの効果を発揮しています。これを津波と雨水との兼用施設として位置、高さ、容積、排水方法等検討し実現すれば、建物密度が高い都市部などでは、相当の効果を発揮すると思われます。前記⑤が農村地域なのに対して、この⑦はその都市版ともいえます。

費用と時間がかかるのが難点ですが、高密な都市部における防災効果はかなり高いと考えられ、検討価値は充分あると考えます

### ⑨漂流物対策

東日本を襲った津波は、沢山の家屋やおびただしい数の漂流物が家屋を襲い、破壊しながら街を遡りガレキ化して、更に流れ下り被害を拡大しました。

漂流物の事前防災計画は、集合駐車場の屋上化やプロパンガスの流出防止装置義務付け等々いろいろ考えられますがここでは省略します。

以上、津波の事前防災について考えを述べてきましたが、今後も地球温暖化による海面上昇や異常気象による集中豪雨の増加、火山や地殻の活動期突入等、巨大自然災害の増加が懸念されています。

提案の大半はこれまでの都市形成化過程で、自然の摂理に反したり、自然の循環を損ねたりしたもので、個々においても復元や是正が求められているものと、これまでのデータや解析では予測のつきにくい現象の二つの項目です。これらの復元や是正は、地域創生の考え方の基礎ともいえるものですので、しっかりした対策計画に基づいた整備が重要と考えます。

## 神奈川県内自然保護ニュース

（このページに掲載する情報をお寄せください。）

## 2017年 横浜で 全国都市緑化フェア開催 ズラシアの隣に里山ガーデン

2017 年 3 月～ 6 月に、「全国都市緑化フェア」が横浜市内で開催されます。

計画の中で、「里山ガーデン」としてズラシアに隣接する植物公園予定地があり、市内最大級（約 1ha）の大花壇（庄巻の景色）を作るとか、色鮮やかな花による大規模な花絨毯（約 6,000 m<sup>2</sup>）により来場者を森の奥まで誘導するなど谷戸の景観に大きく手が加えられようとしています。

（基本計画）

## 多摩川河口の 自然を考えるシンポジウム 2015

主催：日本野鳥の会神奈川支部・日本野鳥の会東京

共催：(公財)日本野鳥の会

後援：(公財)世界自然保護基金ジャパン

(公財)日本自然保護協会

会場：ラゾーナ川崎5階「プラザソル」(JR川崎駅歩5分)

(川崎市幸区堀川町 72-1 ラゾーナ川崎 電話

044-874-8501)

日：2015年10月31日(土)

開場：13:00 開演：13:30~18:30(予定)

入場無料・先着200名

東京湾で最大規模の河口干潟がある多摩川河口は、シギチドリ類を始め干潟生物の宝庫です。その干潟に(仮称)羽田連絡道路の建設が予定されています。皆さんで多摩川河口干潟の過去、現在、未来を考える集いにしたいと考えています。

講演内容

持続可能性アセスメントと合意形成 原科幸彦  
(千葉商科大学)

多摩川河口干潟のシギ・チドリ類 守屋年史  
(バードリサーチ)

水面からみた東京湾と羽田空港の浜辺 長谷川 充  
弘(大森青べかカヌークラブ)

世界のウェットランドの現状と問題 前川聡(世  
界自然保護基金ジャパン)

羽田空港周辺・京浜臨海部の連携強化 川崎市

(仮称)羽田連絡道路の整備)

川と海の繋がりを考える社会システム 清野聡子

(九州大学)

パネルディスカッション(予定)

鈴木茂也(日本野鳥の会神奈川支部)・葉山政治(日本野  
鳥の会)・志村智子(日本自然保護協会)井口利枝子(と  
くしま自然観察の会)・原科幸彦・守屋年史・長谷川 充  
弘・前川聡・清野聡子

■懇親会も同じ会場で予定(参加費:約3000円)してい  
ます。

以下石井隆までご連絡頂ければと思います。当日参加  
も可能です。

問い合わせ先:日本野鳥の会神奈川支部

TEL045-453-3301(月・水・金 11時~15時)

(石井隆 GZH02213@nifty.ne.jp)

## 渋沢丘陵 霊園計画の経過

相変わらず、毎日新聞(神奈川版)だけが経過を追跡して  
います。

秦野・八国見山:ノスリ保護で市が指導 事業者「中止延  
長せず」/神奈川 毎日新聞 7/12

ノスリ:八国見山の山頂、悠々と 秦野・吉田さん撮影成  
功 霊園建設地の森に営巣か/神奈川 毎日新聞 7/14

秦野・八国見山:霊園開発で樹林伐採 自然保護グループ、  
怒りと嘆きの声 /神奈川 毎日新聞 7/18

営巣していたノスリは巣立ったようです。

業者は、これを待っていたように作業を始めたようです。

ほん

## 博物館の未来を探る

東京堂出版 ¥1,800+税

神奈川県博物館協会創立60年を記念して出版された。

博物館が資料の保存や社会教育機能という重要な役目があるにもかかわらず、単に集客数だけで評価されたり、指定管理者制度の下、不安定な運営を強いられながら、頑張る姿に考えさせられた。

平塚市博物館は開館以来地域密着型で地域の人々を巻き込んで活動する中で発展してきた。現在は施設の老朽化、収蔵スペースの不足に悩みながらも活動している姿に敬意を表したい。

こうした活動のみならず、資料の収集・保存の価値が分

かるのは、正倉院の例を引くまでもなく、身近に金沢文庫の例を見れば分かる。

市財政が厳しい中ではあるけれど、今まで果たしてきた役割、ここに触れ、育った多くの人材のことも考えて何とかならないものかと思う。

個人的な興味から言えば、金沢文庫が明治以降迎った歴史の話が面白かった。

特に、エアコン付きの収蔵庫が20年で機能を果たさなくなり資料にカビが生えたという段で、そんな機会がなかった時代に無事保存されてきた知恵について、皆さん何だっただと思いませんか。

第二部「未来に向けて 我が館は」で県内博物館協会会員施設の自己紹介である。身近な施設を改めて見直す目で行ってみませんか。

## 神奈川県自然保護協会からのお知らせ

### 平成26年度 環境基本計画進捗状況 神奈川県自然保護協会からの意見

神奈川県環境基本計画は、毎年その進捗状況について県民意見を聞く機会を作っています。

今までは、ヒアリングに対して意見を述べることはあっ

たのですが、文書で提出するのは初めてになります。

現行の基本計画は、平成17年10月から改訂施行されたもので本年度までの計画になっています。

現在は来年度に向けて新計画の改定作業が行われており、秋にはパブコメにかかることになっています。

このような時期なので、出来るだけ新計画に反映されるよう次期計画への要望も含めて意見を出しました。

なお、この意見に元になった平成26年度環境基本計画進捗状況は

<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f1023/p908804.html>

から見るることができます。

### 〔意見1〕

#### 1 該当箇所

プロジェクト4 (都市と里地里山のみどりの保全と活用)

#### 2 タイトル

県土に占める緑の割合

#### 3 意見・感想

(次期計画への要望)

現在の「神奈川みどり計画」で掲げる目標に対する達成度で評価しているが、現在策定中の神奈川県生物多様性地域戦略は「神奈川みどり計画」の後継計画と聞いている。従って緑の評価は単に面積だけを指標とせず、その質にも注目すべきだと思われる。その中に生物多様性ホットスポットどの程度が含まれるか、或いは地域性緑地の中でも保全体制の状況でランク付けするなどの指標を導入する事が望まれる。

\* 地域制緑地

土地所有者に関係なく、歴史的風土保存地区や近郊緑地保全地区など緑地の開発に許可等が必要な地域

### 〔意見2〕

#### 1 該当箇所

プロジェクト4 (都市と里地里山のみどりの保全と活用)

#### 2 タイトル

里地里山の保全活動を行う団体数

#### 3 意見・感想

目標として掲げられているのは、「神奈川県里地里山の保全、再生及び活用の促進に関する条例」に基づく活動協定を締結して保全等の活動を行う団体数が増加する事としている。

しかしながらこれは、条例に基づいて「里地里山保全等地域」として選定された地域で活動する団体であることから、保全地域の指定そのものの数で表すことで足りる。

県下には、選定されていない里山地域がまだ多くあり、それらの地域での保全活動は重要と思われる。また、それらの地域でボランティア活動をしている里山保全団体もまた多くありそれらの実態を把握し、奨励することによって、次の選定地指定にもつながる。

評価の△は妥当であるものの、次期計画では活動団体数把握の指標について新たな取り組みを期待したい。

### 〔意見3〕

#### 1 該当箇所

プロジェクト5 (特定鳥獣(ニホンシカ、ニホンザル)の保護管理の推進)

#### 2 タイトル

ニホンシカ：生物多様性の保全と再生、丹沢山地での地域個体群の安定的存続、分布域拡大による被害拡大の防止)

#### 3 意見・感想

① ニホンシカの個体数管理について長年の努力の成果が見え始めているように思え関係者の尽力に敬意を表したい。

丹沢山地地域個体群成熟個体1千頭を下回らないように維持するのが目標であるということだが、生息上限値の5千5百頭という実績値は過密ではないのか検討する必要はないか。(未だに被害があると言うこと、シカにしてみれば餌が不足していること)

もっとも、過去3年間毎年2千頭前後捕獲しているのに、5千5百頭から変化がないのは実際はもっと多いのではないかという疑問を持つ人がいるのも分からなくはない。

従って、個体群の安定的存続に◎がついていることには検討の余地がある。

② 林床植生の植被率について

個体群の安定的存続を確認する条件のひとつに、植生の回復があげられると考える。

現在は指標として植被率のみを使っているが、その質にも目を向けるべきである。

植被率で見る植物の多くがシカが忌避する植物であり、それが繁茂することにより他の植物が育ちにくい環境を作っているとすれば、それはシカによって自然再生が阻まれていることになるので、好ましくない現象といえる。

丹沢再生において土壌流出を防ぐ観点からは評価しても、シカ個体群の安定的存続の観点からは評価できない。従って次期計画では植生の質に目を向けた指標を設定するべきと考える。

③ 西湘地域のシカについて

(次期計画への要望)

西湘地域でシカの増加及びその影響が目立つようになった。

丹沢大山地域の自然衰退にはシカ個体群の動向が大きく関わっていたことに鑑みて、箱根地域が手遅れにならないように新たな取り組みをして欲しい。

### 〔意見4〕

#### 1 該当箇所

プロジェクト6 (特定外来生物(アライグマ、オオクチバス、コクチバス等)対策の検討・推進)

#### 2 タイトル

全体的に

#### 3 意見・感想

(次期計画への要望)

特定外来種に限らず、在来の生態系や農作物等々に被害を及ぼす恐れのある国内、国外由来の外来生物に対して対応する必要がある。

プロジェクト6では、概要を見ると対象の生物がアライグマ、オオクチバス、コクチバスの3種となっている。

特定外来種は他にもあり、ここでは植物には触られていない。また被害を及ぼす事が明らかでありながら特定外来種には指定されていない、アメリカザリガニ、アカミミガメ、などが在来の生態系を壊している。

対策のために活動している団体がある一方一般県民の理解が進んでいない現実もある。

特定外来種に限らず被害を及ぼし、また及ぼす恐れのある外来種対応のプロジェクトに衣替えし、その中では啓発のための事業にも取り組む必要がある。

### （意見5）

- 1 該当箇所  
プロジェクト6（特定外来生物（アライグマ、オオクチバス、コクチバス等）対策の検討・推進）
- 2 タイトル  
タイワンリスについて
- 3 意見・感想  
計画では、タイワンリスについてこれまでの取り組みとして「有害鳥獣として捕獲するほか、被害の多い市町では防除実施計画を策定し、計画的な防除に努めています」としている。毎年の捕獲数を見ると増加の傾向があり、分布の拡大も起きているように感じられる。  
計画当初から問題として取り上げている事に照らして、市町に委ねているとはいうものの何らかの指標を設けて評価する事が望まれる。次期計画では対応するべきだ。

### （意見6）

- 1 該当箇所  
プロジェクト6（特定外来生物（アライグマ、オオクチバス、コクチバス等）対策の検討・推進）
- 2 タイトル  
外来魚対策の検討・推進
- 3 意見・感想  
この項に関しては計画発足以来、宮ヶ瀬湖を対象として実態把握＝モニタリング及び駆除方法の検討となっている。  
オオクチバス、コクチバス、ブルーギルは県漁業調整規則で移植等が禁止されているとは言うものの、実態は拡散の一途である。  
宮ヶ瀬湖での調査活動の成果をもとに○としているが、県民目線では外来魚問題に対応できていないと思えない。

### （意見7）

- 1 該当箇所  
プロジェクト8（丹沢大山の自然再生の推進）
- 2 タイトル  
林床植生などの自然環境の回復
- 3 意見・感想  
意見3②で述べたとおり、現在は指標として植生率のみを使っているが、その質にも目を向けるべきである。  
植生率で見る植物の多くはシカが忌避する植物であり、それが繁茂することにより他の植物が育ちにくい環境を作っているとすれば、それはシカによって自然再生が阻まれていることになるので、好ましくない現象といえる。  
丹沢再生において土壌流出を防ぐ観点からは評価できるが、丹沢大山自然再生事業が進んだこれからは希少種の回復率とか、健全だった頃の植生（1964年報告書など）との比較など植生の質に目を向けた指標を設定するべきと考える。

シカの個体群の安定的存続に◎がついているが、

毎年2千頭前後捕獲しているにも拘わらず上限値の5千5百頭から変化がないのは、安定的に存続していると云えるか疑問。

### （意見8）

- 1 該当箇所  
プロジェクト9（相模湾の保全と再生）
- 2 タイトル  
全体的に
- 3 意見・感想  
（次期計画への要望）  
構成事業：1 浜辺のみどりの保全、2 自然にやさしい海岸づくりの推進があげられているが、これらに密接な関係があるのは津波防災計画である。今後の計画策定に当たっては津波防災計画との整合性を持って実効性のあるものにする必要がある。

### （意見9）

- 1 該当箇所  
プロジェクト9（相模湾の保全と再生）
- 2 タイトル  
侵食対策実施海岸数
- 3 意見・感想  
侵食対策として、実施海岸数を目標としているが、予算によって決まる事業計画にほぼ一致すると思われるので達成率は高く当然と思われる。  
全体の目標「浸食海岸における砂浜の保全・回復」に照らせば養浜等事業施行地でその効果がどれだけあったか及び生態系の回復がどうであったかのように生物多様性に目を向けた評価が望ましい。

### （意見10）

- 1 該当箇所  
プロジェクト10（三浦半島のみどりの保全と活用）
- 2 タイトル  
全体的に
- 3 意見・感想  
（次期計画への要望）  
概要に述べるように、三浦半島は首都圏の南西部において唯一の大規模な緑地や農地、変化に富む岩礁や干潟等の自然海岸、多様な生態系や広がりのある景観を有する貴重な地域である。目標として「自然環境の保全と自然環境を基盤とした地域の活性化」が取り上げられていて評価の項目は「三浦半島公園圏構想の推進」のみとなっている。小網代の保全が一定の成果を上げた今、半島全体の特に関東に着目して生物多様性保全への施策とその評価が望まれる。

### （意見11）

- 1 該当箇所  
プロジェクト15（環境と共生するまちづくり）
- 2 タイトル  
構成事業の内容
- 3 意見・感想  
（次期計画への要望）  
構成事業の内、評価されていない「環境と共生する都市圏の形成」、「自然環境に配慮した水辺づくりの推進」について、都市公園や水辺づくりに当たって生物多様性の観点から植栽樹種やその管理のあり方の検討<sup>\*1</sup>、また生態系に影響を及ぼす外来種の侵入への対策<sup>\*2</sup>が必要と考えられる。対応をお願いし

たい。

- \* 1 ; 植栽樹木は土地本来の植物を多用すること。剪定に当たっては場所の特性に合わせて目的に合う方法で行う事（街路樹、生け垣、公園）
- \* 2 ; 特に水辺では特定外来種、影響があると見られる未判定外来生物の侵入が多く見られる。

### (意見12)

- 1 該当箇所  
プロジェクト19（環境教育の推進と基盤づくり）
- 2 タイトル  
2014年度の主な取組
- 3 意見・感想  
2014年度の主な取り組みを見ると、学校教育に関するものがほとんどである。また、環境教育の中身は知る限りエネルギー、地球温暖化防止関係が大部分である。環境教育は自然体験、生物多様性や生態系理解も大きな分野である。また学校教育で行う事も大事であるが社会教育で行う事も重要である。  
そのための施設としては、博物館、ビジターセンターが有効に機能していると考えられるが、本年度丹沢湖ビジターセンターが閉鎖されたのは逆行する

動きである。

### (意見13)

- 1 該当箇所  
環境基本計画全体
- 2 タイトル  
環境基本計画進捗状況点検における評価のあり方
- 3 意見・感想  
(次期計画への要望)  
評価に当たって、計画による事業量を成果として評価している例が多い。
  - ① 計画する事業量は予算に制約される。そこで本来の目的を遂げるために必要な目標は何であり、それに対して事業年度ごとに設ける下位の目標がどの程度の割合になっているか示すべきである。例えば、プロジェクト11における監視パトロールの実施数など実施件数やプロジェクト20におけるマイアジェンダ登録数など参加人数など。
  - ② 重要なのは事業を行った結果どのような成果が得られたかということであり、それによって事業の妥当性が明らかとなる。  
中には1年という短期間で成果が顕著に認められない事業があると思われるので、例外は認めるにしても基本はアウトカムによる評価とするべきである

## 助けてください！ 自然保護団体や学校クラブなど仲間が増えれば力になります！

冒頭に書きましたが、今年は50周年記念の年です。

50年前をひもとくと、協会は活発な活動をしており、存在感も大きかったようです。

協会の存在感が大きければ、自然破壊への抑止力、保全活動の推進力として働けます。

また、県民への啓発活動として自然理解のための観察会、展示会などの機会も多く作れます。

2020年の東京オリンピック・パラリンピックの会場の一部が江の島に決まりました。喜んでばかりはいられません。

51年前の東京オリンピックでは、江の島の生きもの豊かな海岸岩礁が埋め立てられました。

大きな行事には、これを理由に大きな開発行為が伴うのが普通です。

横浜の「全国都市緑化フェア」にしてもそうです。

このような事例では、一旦決まってしまったことは覆すことはほぼ不可能です。しかし保護・保全勢力が強くない

ととんでもないことになります。

県内で活動する自然保護団体が、お互いを知り交流し、時には共に力を合わせられる場面がある程度のつながりがあると良いと思います。

協会発足当初、当時活動していた県内自然保護団体の思いの結果として出来たものでしたから、各団体の代表が理事として参加していました。

それと同じようにはいかないまでも、協会の意志決定に当たっては県内自然保護団体の総意が反映されるものでありたいと思います。

個人の会員が多くなると力になります。さらに力になるのは、団体の会員が増えることです。

団体会費の問題は、今後解決する課題になると思います。

個人からいただく会費を主な運営資金として、団体の活動を支援するという考え方もあると思います。

ぜひ、自然保護団体やサークルの皆さん、学校の生物、自然関係クラブの皆さま仲間になってください。

## 助けてください！ II ボランティア・助っ人をお願いします

実は事務局の人間はひとりです。助けて下さる方を求めています。

仕事内容：企画運営に関わるアイデア出し 事業実行時

の事前事後実務 経理処理 法務処理 会報編集 ニュースレター作製・印刷 など

条件：Eメールで連絡が取り合えること

## ニュースレター 82号

特定非営利活動法人

神奈川県自然保護協会

<http://www.eco-kana.org>

郵便振替口座 00230-0-112653 銀行からの振り込みは ゆうちょ銀行(9900) 029 (ぎんきょ)店 当座 0112653

2015年 8月 2日発行

〒243-0816 厚木市 林 5-15-10 青砥方

TEL&FAX 046-222-2356

Eメール：nacs-kana-office01@eco-kana.org